

資料

## 群馬県太田市におけるタイワントビナナフシ(ナナフシ目:トビナナフシ科)の採集記録

金杉隆雄<sup>1</sup>・高橋文吾<sup>2</sup>・佐藤智子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>群馬県立ぐんま昆虫の森: 〒376-0132 群馬県桐生市新里町鶴ヶ谷460-1

(kanasugi-t@pref.gunma.lg.jp)

<sup>2</sup>ぐんま昆虫の森ボランティア

**要旨:** 本州, 四国, 九州, 対馬, 南西諸島に分布しているタイワントビナナフシ *Sipyloidea sipylus* を群馬県太田市で採集した。本種はこれまでに関東南部の神奈川県, 千葉県で記録があるものの, 関東北部では確実な記録がなく, 群馬県及び北関東では初記録と思われる。

**キーワード:** タイワントビナナフシ, 群馬県, 太田市, 初記録

### Collecting record of *Sipyloidea sipylus* (WESTWOOD, 1859) in Ota City, Gunma Prefecture (Phasmatodea: Diapheromeridae)

KANASUGI Takao<sup>1</sup>, TAKAHASHI Bungo<sup>2</sup> and SATO Tomoko<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Gunma Insect World: 460-1 Tsurugaya, Niisato cho, Kiryu, Gunma 376-0132, Japan

(kanasugi-t@pref.gunma.lg.jp)

<sup>2</sup>Gunma Insect World Volunteer

**Abstract:** A kind of wing stick insect *Sipyloidea sipylus* is known currently in Honshu, Shikoku, Kyushu, Tsushima and Nansei Islands. So far, few records of this stick insect were available from Kanagawa Prefecture and Chiba Prefecture in southern Kanto District. The authors found and collected two individuals of this species from Ota City, Gunma Prefecture. Probably, this will be the first record of this species from northern Kanto District, Honshu, Japan.

**Key words:** *Sipyloidea sipylus*, Gunma Prefecture, Ota City, new record

## 1. はじめに

タイワントビナナフシは, トビナナフシ科トビナナフシ亜科タイワントビナナフシ属に属するナナフシの一種であり, 本州, 四国, 九州, 対馬, 種子島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄本島, 石垣島, 西表島に分布している。

出現期は本州では春から晩秋に, 南西諸島では通年であり, 林縁の低木や茂みの上, 農道沿いの草むらなどに棲息している(岡田, 1999)。

今回, 北関東では初確認と思われるタイワントビナナフシを群馬県太田市で採集したので報告する。

## 2. 採集記録と経過

群馬県太田市菅塩町, 2♀(幼虫) 14-VIII-2016, (1♀16-VIII-2016羽化): 高橋文吾, 佐藤智子 採集

今回, 採集されたタイワントビナナフシは, 太田市菅塩町の菅塩沼東側駐車場の石垣で見つかった(図1)。採集されたのは幼虫2個体であり(図2, 図3), うち1個体は採集された2日後に羽化して成虫となった(図4)。採集された個体はコナラ *Quercus serrata* (ブナ科) やベニカナメモチ *Photinia × fraseri* (バラ科), サンタンカ *Ixora chinensis* (アカネ科) などの葉を与えて飼育を試みたが摂食が見られず, 幼虫は3日後に, 羽化した個体も5日後に死亡した。死亡した個体は標本として群馬県立ぐんま昆虫の森で保管している。

## 3. 考察

本州における本種の記録は, 宮城県, 福島県, 栃木県, 神奈川県, 千葉県, 静岡県, 岐阜県, 愛知県, 富山県, 京都府, 大阪府, 和歌山県, 兵庫県, 岡山県, 広島県, 山口



図1. タイワントビナナフシが確認された場所.

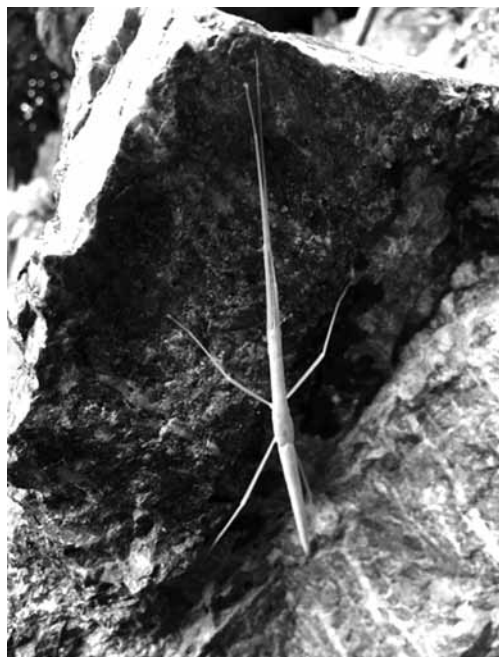


図2. 石垣で見つかった終齢幼虫.

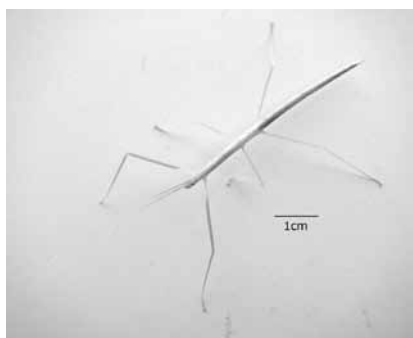


図3. タイワントビナナフシ(幼虫).

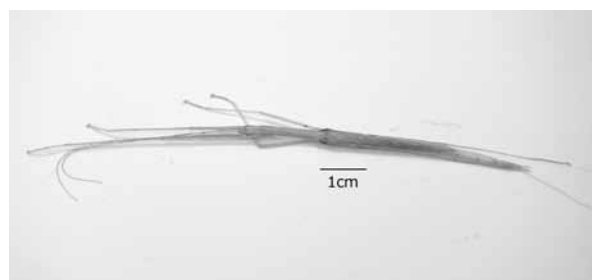


図4. 羽化した成虫.

県があげられている(市川, 2016). 上記の記録のうち、宮城県、福島県、栃木県に関しては記録がなく間違いであろうとのことである(富永私信).

本種は園芸植物の移植とともに人為的に運ばれ公園や人家の庭で発生することが知られており(岡田, 1999)、四国や近畿以北は人為的に広がったと考えられている(槐, 2013). 関東地方では神奈川県と千葉県で記録されているが、神奈川県での記録は横浜市における1例のみであり(高桑, 1989)、その後は確認されていないという(槐・浜口, 2004). 千葉県館山市では2010年に記録され(木村・倉田, 2012)、その後2015年にも採集されており、定着している可能性が示唆されている(尾崎・福島, 2016)

今回採集された場所は既知の分布域から遠く離れており、本種が自力で移動してきたとは考えにくく、本個体も何らかの理由で人為的に持ち込まれた可能性が高いと思われるが、周囲には最近になって植栽された樹木が見当たらないことや幼虫状態で複数個体が確認されていることから同地で発生していた可能性も考えられる. 今後も確認されるか、一時的な発生なのか、追跡調査が必要といえる.

## 謝辞

本種の分布記録についてご教授いただいた日本直翅類学会の富永修氏および市川顕彦氏、文献の入手でお世話になった千葉県立中央博物館の尾崎煙雄氏に御礼申し上げます.

## 引用文献

- 槐 真史(2013): 日本の昆虫1400 ①チョウ・バッタ・セミ. 文一総合出版, 東京, p. 189.
- 槐 信史・浜口哲一(2004): ナナフシ目. 神奈川県昆虫誌, 神奈川県昆虫談話会, 小田原, p. 189-192
- 市川顕彦(2016): ナナフシ目. 日本産直翅類標準図鑑. 日本直翅類学会(編), 学研, 東京, p. 196
- 木村篤志・倉田章久(2012): 千葉県館山市におけるタイワントビナナフシの記録. 月刊むし, 502: 11.
- 岡田正哉(1999): ナナフシのすべて. トンボ出版, 大阪, p. 27
- 尾崎煙雄・福島努(2016): 館山市でタイワントビナナフシを採集. 房総の昆虫, 57: 104.
- 高桑正敏(1989): タイワントビナナフシを神奈川県横浜市で採集. 月刊むし, 226: 9